

投資家のリスクに対する投資姿勢について

- ✓ 現在の市況は、投資家のリスク回避姿勢が本格化したと考えるよりも、むしろ、小幅なリスク選好を続けつつ、次の大きな投資機会を狙い、資金を待機させていると考えられる。
- ✓ リスク性資産の価格や残高は、現状の調整局面を経て、この先緩やかに上昇基調となると考える。

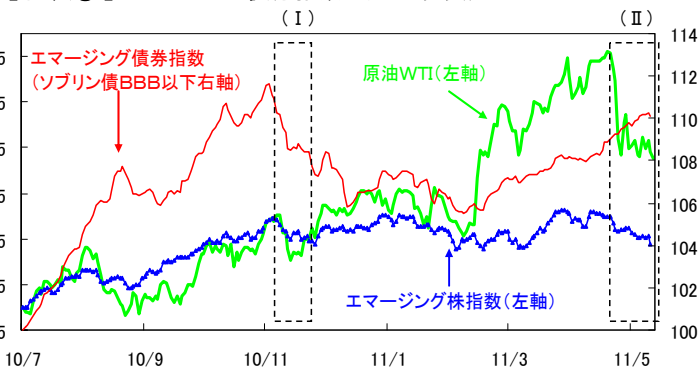
● コモディティやエマージング株に代表されるリスク性資産が5月3日を境に下落しており、投資家のリスク回避姿勢が本格化しているとの見方が一部でされています。通常、リスク回避姿勢が本格化する際には、エマージング株やコモディティに加え、エマージング債券も下落する傾向があります(図表①、点線(I))。しかし、現在の市況は、コモディティやエマージング株が下落する一方、エマージング債券はむしろ上昇しています(図表①、点線(II))。これを見る限り、投資家のリスク回避姿勢が本格化したと考えるより、むしろ小幅なリスク選好は続けつつ、次の大きな投資機会を狙い、資金を待機させているといった印象を受けます。

● 本格的なリスク回避局面の代表であるリーマンショック時の局面では、全てのリスク資産が大幅下落する一方、安全資産の代表である米MMFに資金が大量に流入しました。現在の市況では、リスク資産が下落する一方、米MMF残高は低位横ばい推移を続けています(図表②)。

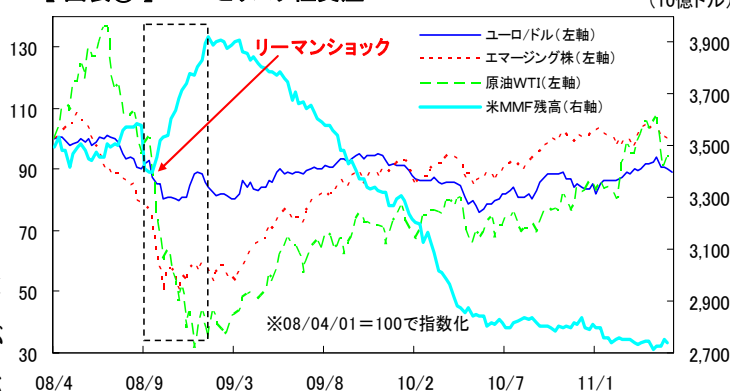
● 米国国内を見ても、リーマンショック時の局面とは様相が大きく異なります。S&P500が調整する一方、リスク回避的に米MMFに資金がシフトしている兆候は見とれません(図表③)。

● 米国投資信託の資金流入傾向を見ても、投資家のリスク回避的行動は観測されません。現在の市況で、リスク性資産の下落が始まった5月3日以降も、米国の投資家はエマージング諸国株を含む外国株投信ファンドに資金を投資し続けています。実際、5月4日以降、5月11日までの間に約43億ドルの資金が国内株投信から流出する一方、約14億ドルの資金が外国株投信に流入しています。これを見る限り、リスク選好姿勢はくすぶり続けているようです(図表④)。

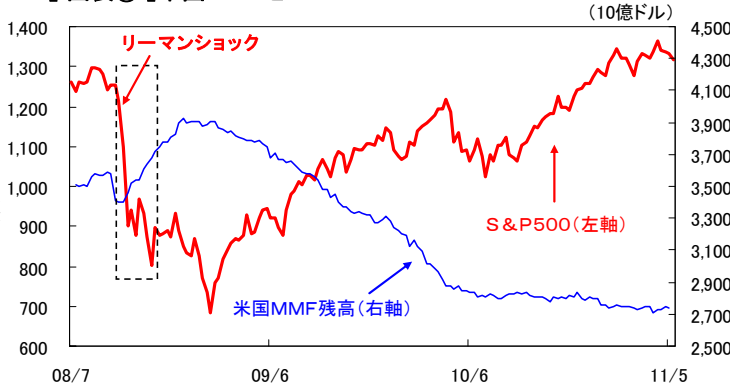
【図表①】エマージング債券指数とリスク性資産



【図表②】MMFとリスク性資産



【図表③】米国MMFとS&P500



【図表④】米国投資信託資金流入動向



出所: 図表はブルームバーグ、ニッセイ基礎研のデータを基にニッセイアセットマネジメント作成

当資料は市場環境に関する情報の提供を目的としてニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。当資料のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
 <審査確認番号H23-TB22>